

KOMAZAWA 駒澤大学 × 明治大学 MAEJI

試合後、観客席からの声援に応える駒大イレブン。4年連続で決勝の舞台へと駒を進めた
(撮影・野澤俊介)



3年連続で決勝の地へ！！

リベンジ果たし、決勝進出！！

総理大臣杯準決勝。この試合は駒大にとって、ただの一試合ではなかった。相手は関東選手権準決勝で屈辱の敗戦を喫した明大。「雪辱を晴らしたい」(秋田監督)。天皇杯出場権獲得、そしてリベンジを果たすべく、選手たちは最高のモチベーションで試合に臨んだ。

序盤駒大はいつものように前線の赤嶺、原の2トップにロングボールを合わせ明大ディフェンスの裏を突く。一方の明大は関東選手権時と同様、両サイドを使った速い攻撃を仕掛けてくる。決定機を演出されるもなかなかしのぎきり、両者一進一退の攻防を繰り返す時間帯が続く。

その均衡が破られたのは18分。太のゴールキックを明大DFがクリアミス。すかさず原が抜けだし右足で先制点をあげた。このゴールで勢いに乗った駒大はこの日サイドハーフに起用された塚本が果敢に攻撃参加。「うかがいサイドから攻めることによって相手のサイド攻撃が機能していなかった」(鈴木祐)というように明大のサイド攻撃を封じてみせた。

後半に入ると50分、小林亮が相手MFのボールを奪い取り、赤嶺、原とつなぐ。パスを受けた原はリフティングで相手をかわし、豪快に蹴り込み追加点をあげた。さらに62分、駒大有利の展開が訪れる。明大のエース松ヶ枝が2枚目の警告で退場。誰も駒大の独壇場を予想しなかった。しかし、「相手が一人減って油断してしまった」(鈴木祐)駒大。試合を決定づける3点目を奪えぬまま時間だけが過ぎ、逆に試合終了間際、明大にゴールを許してしまう。「3点目を決めていたらもっと楽になっていた」(塚本)。駒大はその後明大の粘り強い攻撃に苦しみながらも逃げ切り、試合終了。4年連続、決勝の舞台に進むこととなった。

勝利すれば、前人未踏の大会3連覇。その偉業を達成することは決してたやすいものではない。「燃えてやります」(秋田監督)。90分間、完全燃焼したのだけが、その栄光を手にする。
(永峰 綾)